



**SEDAI ATELIER**

ここは、

次世代に受け継いで行く、

市民の為の、

開かれた工房です。

大磯世代工房

展示室では  
若い世代に受け継いで行く為の  
「技術」や「文化」をテーマとした  
企画展を開催します。

芸術家の生活空間を垣間みたり、  
自分の作品も作ることができる、  
市民の為の開かれた、  
体験学習の場です。

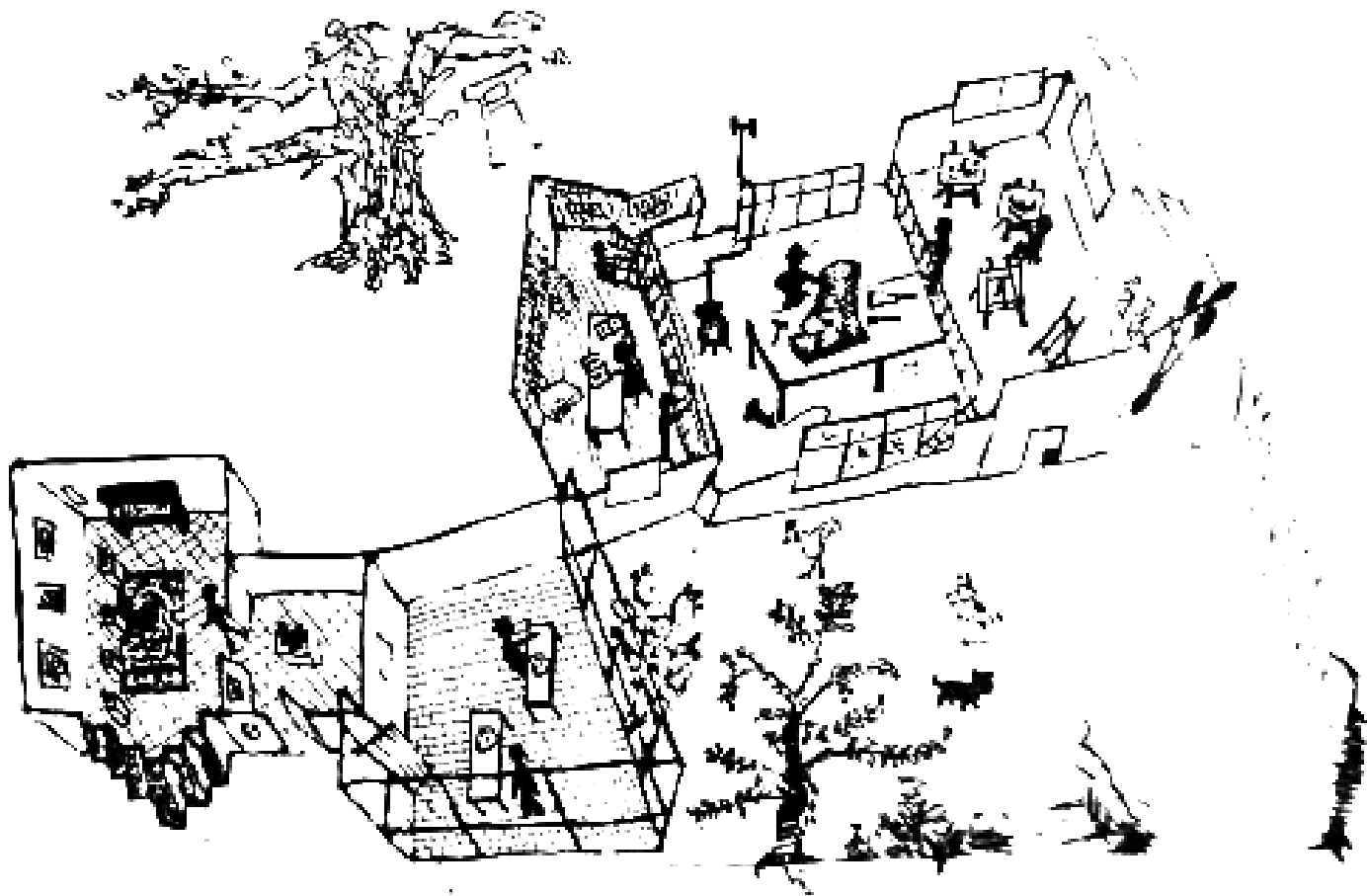
開かれた場ですから、  
たまたま工房に居合わせた学芸員や  
老練な作家の話聞ける時もあります。  
来館者同士の会話もはじまる場です。

ここでは、  
美術館では体験できない、  
様々な芸術体験が出来ます。

作家個人が長年蒐集した  
書籍やコレクションも  
実際に手に取って  
閲覧出来ます。

アトリエ背後は  
高麗山ハイキングコース  
隣は高来神社。  
恵まれた周辺環境です。

ガラス張りのカフェコーナーもあり  
創造性豊かな制作の場と、  
語らいと創造と自然が体験できる  
開かれた工房です。



## 展示室

ステンドグラスが幻想的です。  
作品が展示されています(絵画、彫刻や絨毯等)  
美術館やギャラリーとは異なる切り口の興味深い企画展を計画しています

## みんなのアトリエ

来館者が絵を描いたり、作品を作るための開かれたアトリエです。さまざまな体験学習も出来ます。

## オレンジリー(温室)

子供のお絵描きや、カフェコーナー、図書の閲覧など、自由な空間です。

## アトリエ

彫刻家・保田春彦のアトリエが施設の中心です。中世イタリアの工房制の様なアトリエで、色々な作家達の仕事にふれる事が出来ます。

## 図書コーナー

1,000冊以上の美術書があります。古いイタリアの美術書や珍しい書物もあります。実際に手にとって見る事が出来ます。

## 近隣環境

工房隣は高来神社。気分転換に散歩やスケッチに出かけられます。大磯町指定のシイニッケイの巨木がアトリエの窓から観えます。

## 世代工房が考えて行く「様々な体験」の目的

芸術や技術の教育が何故必要かを考えてみます。

ドイツでは小学校の美術の授業に「卵」を持って来させます。テンペラ技法を伝承するためです。  
例えば、日本で、日本画を教えるために、「膠」を持参させるような教育機関があるでしょうか？  
イギリス人記者が日本のことを「恐ろしほど気前よく、伝統と文化を捨て去る国」と称していました。  
我々日本人は、忘れて来てしまったもの、捨て去ろうとしているものが沢山あるのではないのでしょうか？

数学が出来ない子供に、数学ができないことを嘆くのではなく、  
例えば、音楽や絵の時間を増やしてみてもどうでしょうか？唐突な話と思われるかもしれませんが、  
子供の感受性が発達しないと国語も数学も理科も理解出来ません。  
感受性の元となる脳の発達には、「感じる気持ちや、手を動かす知恵と工夫」つまり、芸術や技術が不可欠なのです。  
人間本来の姿や能力をもう一度考え直さないと子供達に良い未来は期待出来ません。

「なぜ?どうして?」という疑問や「わあ!すごい!」という感動を、音楽、美術、技術、運動という実体験を通して繰り返し体験することが、  
学習能力、思考能力の向上に大きく貢献します。

感じる気持ちが形成されない、学ぶ気持ちの起こらない脳のまま、塾へ行って、勉強を詰め込ませても子供たちは苦しむだけです。  
いま、幼少期の「ゲーム脳」が子供達の脳の発達不全で大きな社会問題とされています。  
つまり、ゲームでは感受性が育たないだけでなく、今抱える社会問題を解決できないのです。  
例えばシュタイナーはどのように提唱しているのでしょうか?\*

世代工房ではそのような体験型学習のほんのひと欠片である「美術」を核に、様々な可能性を多くの方々の知恵を借りつつ模索して行きます。  
しかし、堅苦しい雰囲気ではありません。

世代工房に来てみると、芸術を肌で感じて、体験できるのです。  
今迄知らなかった世界が広がります。楽しい。面白い。興味深い。そこが出发点です。  
我々の世代から次世代へ感受性の芽を絶やさない、開かれた工房なのです。